

# 地域活性化という「遊び」

31

京都市  
福知山市 「みわ・ダッシュ村」から

山本晋也

筆者プロフィール

1968年、京都生まれ。美術大学を卒業して渡米後、京都で現代美術作家として活動。そのかたわらオーガニックレストランを経営するも食材を種から作ってみたいくなり、京都市内で畑を始める。結婚して3人の子供を授かったころ、農業生産法人みわ・ダッシュ村の清水三雄と出会い、福知山市の限界集落に移住。廃屋を修繕しながら家族で自給自足を目指す。土と向き合ううち田畑と山や川、個人とコミュニティーの関係やその重要性に気がつき、田舎も都会もすべて含めた「大きな意味での自給」を強く意識するようになる。この考え方は、美術家時代にドイツの現代美術家ヨゼフボイスのすべての人が参加して創り上げる社会彫刻という概念に影響を受けた。現在みわ・ダッシュ村副村長。

「あー退屈やなー」

**長** い長い夏休み、兄たちが北海道に行ってしまったので

一人残された妹がつぶやきます。

夏休みの子供と一緒に過ごす

大人にとっては恐怖の一言。

できるだけ退屈させないように

大人はあれこれいろいろ

うんうん唸って策を練るわけですが

子供がそんなことを言う時

僕はできるだけ

何も言わないようにしています。

「退屈だ」

というのは

「やる事が無い!」ということので

裏を返せば

「使いきれないほどぼーっと時間が

いっぱいある!」

ということでもあるので

らっも

「忙しい忙しい」

「時間が無い時間が無い」

とつぶやく現代人の僕からすると

あくびするほど退屈する夏休みの子

供の状況は

実はとっても羨ましい。

だからそっとしておきます。

だからそっとしておきます。

に日に速くなる

ちよつとばかり外れて

冷静に考えてみると

そつとしておくどころか

この「退屈」こそ今の人間に

最も必要なものではないかとさえ思

ってしまいます。

携帯電話がスマホに進化するととも

に流通も素晴らしい進化を遂げ

いつでもどこでも

必要な物や情報が手に入り

あらゆる事が

**ぼーっと退屈すること**

**忘れてはいませんか**

スムーズにことが

進み

この世の中から

「無駄な時間」と

いうのが

どんどん無くなっ

ていくのは

とても良いことの

ようにも思えます

が、果たしてそう

でしょうか?

今の世の中何もし

ないで

「ぼーっとする」

「退屈する」

というのは犯罪行為のように悪く受

け取られていますか?

本当にそうでしょうか?



兄貴たちが行ってしまって急に遊び相手がいなくなりしばらくは晩ご飯が出来てもぼーっとしてました。

忙しさのあまりストレスから体調を崩し病院に行くと

3時間待って診察5分

薬はさらに1時間待ち

それがさらにストレスになるとい

ことで

ニューヨーク、ロンドン、東京とい

った世界的な大都市では

病院での治療の代わりに



猫と一緒に  
瞑想タイム。

ぼーっとしていたか  
と思うと  
突如縫い物を  
始めたりします。

退屈だったので  
帰郷する  
兄貴たちのために  
飾りを作りました。



■ 兄貴たちは、1,700 キロを走って無事帰郷。

瞑想、マインドフルネス、リトリート  
というような方法が  
その最先端の治療として流行してい  
るそうです。

さて瞑想、マインドフルネス、  
リトリート。

言葉だけ聞くと

さも難しそうな最先端の治療法のよ  
うに聞こえますが

そういった治療法の共通点であり

最も重要なポイント

「緩める、リラクセス」。

緩める、リラクセスという

ちよつと学術的という

おしゃれに聞こえますが

簡単に言うと

何も考えずに

「ぼーっとする」ということです。

子供の頃

「ぼーっとしてちゃダメですよ！」

と言われてハッと我に返るとい

験は誰でもお持ちだと思いますが

その子供の頃なら誰でもできた「ぼ

ーっとする」という行為が

大人になって忙しく暮らすうちに

気がつけば専門家の先生に教えても

らわないとできないくらい

何か難しいことになってしまってい

るのはどういうことでしょうか。

一日に昼と夜があるように

いくら世の中が変わっても

やはり人間の体にもそういう時間は

必要なのではないでしょうか？

いろいろ調べてみると

歴史を変えるような発明や発見も

案外そんな時に生まれたことが多い

ような気がします。

夏休みに子供が退屈していたら

パソコンのハードディスクや

自分の頭をぐるぐる回転させて

無理に適当な答えを出そうと考える

のではなく

子供と一緒に

「ぼーっと退屈」してみてもどうで

しょう？

今まで考えてもみなかったような

楽しく素晴らしいアイデアが湧いて

くるかもしれません。